

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：渡邊 浩司

事業名	地域高規格道路 <small>ちばなかかんじょうどうろ</small> 千葉中環状道路 都市計画道路 <small>しおだちょうほんだちょうせん</small> 塩田町誉田町線 <small>しおだちょう</small> （塩田町）	事業区分	街路	事業主体	千葉市
起終点	自：千葉県千葉市中央区塩田町 <small>ちばけんちばしちゅうおうくしおだちょう</small> 至：千葉県千葉市中央区生実町 <small>ちばけんちばしちゅうおうくおゆみちょう</small>			延長	0.78km
事業概要 都市計画道路塩田町誉田町線（塩田町）は、千葉都心を囲む延長約20kmの千葉中環状道路の一部であり、地域高規格道路の指定を受けている路線である。本路線の整備により、東南部方面と臨海部とのアクセス強化が図られるとともに高規格道路である京葉道路蘇我ICとの接続など、広域的なアクセス性の向上による蘇我副都心の育成強化が図られるものである。					
H19年度事業化		S44年度都市計画決定 (H19年度変更)		H20年度用地着手	
H19年度事業化		S44年度都市計画決定 (H19年度変更)		H19年度工事着手	
全体事業費	177億円	事業進捗率	約9%	供用済延長	0km
計画交通量	30,900～36,500台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 1.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 124/139億円 事業費：123/138億円 維持管理費：0.8/0.8億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 147/147億円 走行時間短縮便益：133/133億円 走行費用減少便益：13.2/13.2億円 交通事故減少便益：1.3/1.3億円	基準年	平成28年
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量：B/C=1.1～1.3（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1～1.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）				
事業の効果等	・国土・地域ネットワークの形成（地域高規格道路整備区間指定 千葉市中央区～中央区 H19.31km） ・個性ある地域の形成（京葉道路蘇我インターチェンジに繋がり、広域的な道路網が形成され、蘇我副都心の育成に寄与する。） ・災害への備え（災害時における緊急輸送道路の多重性・代替性が確保され、災害に強い都市構造が形成される。）				
関係する地方公共団体等の意見	・地元の役員や地権者で構成する「塩田まちづくり研究委員会」と、当該事業の整備に対して意見交換を行い進めている。（事業継続に異論なし）				
事業評価監視委員会の意見	費用便益比と事業の必要性を勘案し、当該事業の継続実施は妥当であり、継続を了承。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・平成19年5月に、京葉道路蘇我ICの木更津方面への出入口が供用開始され、フルICとなった。 ・平成22年8月に、地域高規格道路「千葉中環状道路」の一部を構成している新港横戸町線が開通した。 ・平成28年10月に、国道357号湾岸千葉地区改良（6車線化及び地下立体）が全線開通（車道部）した。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	・道路予定地の用地取得に努めており、平成28年度末で用地取得率は40.3%。 ・残事業については、用地の取得が20,074㎡、道路整備が780m。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	・供用の近い路線を優先整備するなど事業の選択と集中を行っており、本路線に対する事業費を抑制せざるを得ない状況であったが、今後は本路線へ事業費をシフトすることで早期完了を目指す。				
施設の構造や工法の変更等	・鉄道横断部の構造変更の検討及び新技術等の活用を図り、公共事業のコスト縮減に努める。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。